（別紙様式）

令和６年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

綾瀬市立綾北小学校

研究テーマ：「生き生きと学び合う子」～他教科に生きる国語科の学習を目指して～

１　実践の目的

グローバル化と技術進歩が進み、生活様式や仕事の仕方の変化も激しい。そのような時代の中で様々な問題解決をするためには、「生きて働く『知識、技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養」の３つの柱が大切になる。校内研究を進めていく上で、本校職員から児童にどのような力を付けていきたいか考えを吸い上げたところ、学習の基礎・基本となる力を見直していきたいという意見が多く出た。そこで、聞く・話す、書く（表現）・読むといった全ての学習の基盤となる国語科を研究の軸として本年度から研究を進めることとし、サブテーマを～他教科に生きる国語科の学習を目指して～と設定した。

２　実践の内容

（１）研究授業

研究を進めていくために、本校職員が考える基礎・基本となる力がどういうものなのか共有したところ、「まず聞くことが大切。」「自分の考えを伝えられるようにしたい。（話す・書く）」「全員が考えをもつというところからしっかりさせたい。」「教科書や問題文を読む力をつけたい。」など多くの考えが出た。これらの力を育むために、物語文や説明文の単元を通して、学び方や話合いの仕方を工夫したり、児童が考えたい・伝えたいと思えるような課題を設定したりしながら各学年で年１回の研究授業を行った。

【３年】こまを楽しむ

【６年】ぼくのブックウーマン

【マイステップ】気持ち

（２）～授業スタイルの共通化（振り返りを通して）～

全学年研究授業の展開に振り返りの時間を設けた。各学年児童の実態に合わせて振り返りのもち方に工夫が見られた。また、普段の授業については、教科や単元に応じて

振り返りの時間を設けるようにしている教員が多く、毎時・単元ごと・書く・伝えるなど柔軟に振り返りを行っている。

（３）協議・指導講評

各学年授業後は校内研究全体会を開き、授業内容について協議を行い、綾瀬市教育委員会の指導主事や神奈川県教育委員会子ども教育支援課の指導主事から指導講評もいただいた。その際、評価の観点をもとに国語科の系統性についてご教授いただいたり、児童が考えたくなる発問づくりについて授業ごとに提案をいただいたりすることができた。

（４）推進委員会組織体系

今年度から校内研究推進委員の構成を改め、①総括チーム（主に紀要の作成や日程の調整、講師との連絡などを行う。）②全体会・協議会運営チーム（主に全体会・協議会の持ち方を検討、当日の運営を担当する。）③研究授業チーム（主に学習指導案の型の作成、授業内容や学習指導案の検討を行う。）の３つのチームに分け、役割を明確にすることで校内研究の充実と効率化を図った。

３　実践の成果と課題

（１）成果

全クラスが授業を行ったことで、それぞれの学年・単元でどのような力をつけるのか授業を通して確認することができ、１～６学年のつながりや系統性について考えることができた。また、各学年で単元のゴールを意識し、想いや意図をもって授業研究をしたことで、「子どもたちの実態から『聞く』を課題として挙げ、研究授業を計画し、計画的に指導することで子どもの変容が見られた。」「意思表示できる課題を意識して設定することで、誰もが授業に参加することができた。」など、生き生きと学び合う児童に迫ることができた。校内で行ったアンケートから「進んで学習している」「意欲的に学習に取り組んでいる」と感じられている保護者が増えた。学ぶ楽しさを感じた児童が家庭に帰っても学習に取り組む基礎作りができた。

（２）課題

基礎・基本の力をつけたいという教員の願いに対して、綾北小学校として身につけさせたい基礎・基本となる力とは何かを明確にすることができなかったため、一貫性をもって研究授業に取り組むことができなかった。また、物語文と説明文の２つの単元から各学年が選択して授業を行ったことで、系統性が見えづらかった面もあった。学習したことを「どのように活用するか」「何に生きるか」という学ぶ意義を感じさせられたかは疑問となる。目的意識をもてるような単元構成を考えていきたい。

４　今後の展開

今後は、研究授業の単元を物語文か説明文のどちらかに絞り、より系統性を意識した研究を行い、各学年で育てたい力を明確にして児童に確かな学力を身につけさせていきたい。また、指導主事から提案いただいた発問づくりに力を入れ、児童も教員もゴールを意識して単元を進められるようにもしたい。それにより、振り返り内容の充実につながっていけばよいと考えている。